

優秀賞



日本自動車リサイクル部品販売団体協議会 グリーンポイントクラブ
早稲田大学環境総合研究センター 株式会社早稲田環境研究所

日本自動車リサイクル部品販売団体協議会では、早稲田大学環境総合研究センターおよび株式会社早稲田環境研究所との協力により、LCAを用いて自動車リサイクル部品(リユース部品、リビルト部品)の環境負荷低減効果を数値化。流通システムと連動した形でCO₂削減効果を算出できる「グリーンポイントシステム」を通じてリサイクル部品の利用促進を図っている。

●自動車リサイクル部品の環境負荷低減効果を数値化

環境負荷の少ない自動車リサイクル部品の利用促進が求められているが、国内ではまだ認知度が低く、補修部品市場における利用率は約6%にとどまっている。また、新品の部品と比較した場合の環境負荷低減効果についても、客観的な数値データが整備されていなかった。

こうしたことから、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会および早稲田大学環境総合研究センターでは、LCAの考え方にに基づき、新品部品の製造・流過程とリサイクル部品の商品化・流過程のCO₂排出量の比較に関する共同研究を進め、リサイクル部品1点ごとにCO₂削減効果を数値化し表示するシステムを構築。車種・部品ごとのデータベース化を可能にした。

さらに株式会社早稲田環境研究所との協力により、自動車リサイクル部品供給事業者の流通システムと連動した形でCO₂削減効果を算出できる「グリーンポイントシステム」を開発し、2009年5月に本格稼働を開始した。

「グリーンポイントシステム」では、部品流通システムの部品名や車両データ等とリンクした形で、CO₂排出量に関するデータベースが一元管理され、業界内のどのシステムから利用しても同様の数値データが得られるしくみになっている。リサイクル部品として流通する475部品、18,734

車種(型式)をカバーしており、日本国内で走行している大半の自動車(二輪車を除く)に対応することができる。



排気量1,500CC、4ドアセダンの車にリサイクル部品を使用したCO₂削減表示の一例

●業界全体でシステムを共同利用

「グリーンポイントシステム」では、リサイクル部品を利用する自動車整備工場などに対して「CO₂削減貢献にレポート」が提供される。これにより整備工場では、リサイクル部品を利用して修理を行うことによる環境負荷低減効果を、具体的な数値に基づきアピールすることが可能になる。さらに、リサイクル部品を利用した整備メニューをユーザーに提案するための「ECO整備見積システム」の検討も進められている。

日本自動車リサイクル部品販売団体協議会では、「グリーンポイントシステム」の共同利用に向け、「グリーンポイントクラブ」を設立。2009年7月時点で13の部品流通団体が加盟しており、傘下の事業者数は530社にのぼっている。2008年4月～2009年3月における、「グリーンポイントクラブ」全体のリサイクル部品の販売点数は約332万点で、新品部品を使用した場合に比べ160,840トンのCO₂の排出が抑制されたことになる。

今後、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会では、「グリーンポイントシステム」の信頼性をさらに高めるとともに、広報活動の充実、損害保険業界等との連携による「エコ整備・車検」のメニュー化、ポイントの付与等による「エコユーザー」の拡大などを通じて、リサイクル部品の利用を促進していく考えだ。

LCAに関しては様々な研究が進められており、環境配慮製品の開発などにおける利用事例が見られるが、製品販売の現場において活用されるケースはまだ限られている。「グリーンポイントシステム」の取り組みは、LCAの考え方を製品市場に浸透させていくという点で大きく注目されるものだといえる。



広報用ポスター